

「もう、忘れていいよ。
わたしがここで、覚えてるから」

『標的の村』『標的の島風かたか』
三上智恵

『テロリストは僕だった』
大矢英代

沖縄 スパイ 戦史

監督:三上智恵、大矢英代
プロデューサー:橋本佳子、木下繁貴
撮影:平田守 編集:鈴尾啓太 監督補:比嘉真人 音楽:勝井祐二
協力:琉球新報社、沖縄タイムス社
製作協力:沖縄記録映画製作を応援する会
製作:DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵、大矢英代
配給:東風
2018/日本/DCP/114分/ドキュメンタリー

ふたりのジャーナリストが迫った沖縄戦の最も深い闇。
少年ゲリラ兵、戦争マラリア、スパイ虐殺……
そして、ついに明かされる陸軍中野学校の「秘密戦」とは？

www.spy-senshi.com



killed spy
position /
assembled /



第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む24万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が降伏する1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部ではゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いた。作戦に動員され、銃を持ち故郷の山に籠って米兵たちを翻弄したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「護郷隊」として組織し、「秘密戦」のスキルを仕込んだのが日本軍の特務機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。

1944年の晩夏、大本営が下した遊撃隊の編成命令を受け、42名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に渡った。ある者は偽名を使い、学校の教員として離島に配置された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の狙いとは。そして彼らがもたらした惨劇とは……。

戦後70年以上語られなかった 陸軍中野学校の「秘密戦」、 明らかにするのは過去の沖縄戦の 全貌だけではない。



「散れ」と囁くソメイヨシノ
「生きる」と叫ぶカンヒザクラ

長期かつ緻密な取材で本作を作り上げたのは、二人のジャーナリスト。映画「標的の村」『戦場の止み』『標的の島 風かたか』で現代の闘いを描き続ける三上智恵と、学生時代から八重山諸島の戦争被害の取材を続けてきた若き俊英、大矢英代。

少年ゲリラ兵、軍命による強制移住とマリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……。戦後70年以上語られることのなかった「秘密戦」の数々が一本の線で繋がるとき、明らかにするのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。

映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓を孕んだままの「自衛隊法」や「野外令」「特定秘密保護法」の危険性へと深く斬り込んでいく。



『沖縄スパイ戦史』
応援団募集中!

チラシ、ポスターの配布や前売券の販売協力をしていただける応援団を募集しています。
詳しくは東風(とうふう)までお問い合わせください。 E-mail: info@tongpoo-films.jp
TEL:03-5919-1542(平日11時-18時)|FAX:03-5919-1543

@spy_senshi
fb.com/spy.senshi
www.spy-senshi.com

7月28日(土)より公開
全国共通特別鑑賞券¥1,300発売中
当日一般¥1,700/大専シニア¥1,200(全て税込)

JR総武線・都営地下鉄大江戸線東中野駅徒歩1分
ポレポレ東中野
03(3371)0088
www.mmjp.or.jp/pole2/



『沖縄スパイ戦史』公開記念
三上智恵監督特集上映開催
●6/30(土) - 7/13(金)
ポレポレ東中野にて
●7/21(土) - 27(金)
シネマハウス大塚にて
詳しくは、映画公式HPにて